

## 令和6年度 研究サマリー

研究会名称	腎泌尿器癌研究会	
代表者所属	東京女子医科大学泌尿器科	
代表者氏名	高木敏男	印

### 研究方法・結果

本研究会は、腎泌尿器疾患についての基礎研究・臨床研究を行うことによって、その診断や治療技術の進歩に寄与し、社会に貢献することを目的としている。さらに、国内・国外から多数の医師やメディカルスタッフに対し、教育・研究指導を行い、多くの知見を国内のみならず世界に向けて継続的に発信している。

泌尿器癌研究においては、主に転移性腎細胞がんに対する免疫チェックポイント薬予後予測バイオマーカーの開発を行なっている。同薬剤を投与した患者の末梢血免疫細胞をフローサイトメトリーを用いて解析したり、腫瘍細胞に浸潤する免疫細胞を多重染色し、空間的遺伝子解析を行うことで、使用薬剤別の効果予測因子を評価している。その中で、性別によって腫瘍に浸潤する免疫細胞が異なるとの結果が、論文掲載された。女性に比べて男性において殺腫瘍効果のあるT細胞が多く浸潤していることが判明し、臨床における男性の方が女性より免疫チェックポイント阻害剤の治療効果が高いことの裏付けとなった。今後も、症例数を増やして実績を重ねていく予定である。

移植分野においては、新規の空有間オミックス解析を用いることで顕微鏡的な所見では得られない移植腎拒絶反応の病態整理を明らかにしたり、ドナー由来cell free DNAを利用した拒絶反応を術前に予測し得るかの解析を臨床検体を用いておこない、実際、73例の検討において、ドナー由来のcfDNAが拒絶反応発生のバイオマーカーになり得るとの結果が出ており現在投稿中である。低侵襲な検査にて拒絶反応を早期に予測する重要な結果であると考えている。今後はさらに症例数を増やして検討する予定である。

上記のような、基礎的かつ臨床的な社会に貢献する研究を今後も続けている所存である。

### 研究成果（論文、学会発表、雑誌掲載等）

英文、和文論文 69編（別紙参照）